

2025年地域緩和ケア連携調整フォーラム  
地域緩和ケア連携調整員研修-青森県-の開催を通じて

青森県立中央病院  
サポーターズケアセンター  
がん看護専門看護師  
緩和ケア認定看護師  
山下 慈

# 地域緩和ケア連携調整員としてのこれまでの活動

2017年 地域緩和ケア連携調整員ベーシックコース修了

2017年 地域緩和ケア連携調整員アドバンスコース修了

医療・介護を繋げる在宅緩和ケアマップと介護施設への看取り教育への取り組み

病院名	★医療法人芙蓉会 村上病院		
院長	水木 一郎	診療科	
訪問診療担当 又は 緩和ケア担当	橘川 正利	内科 / 循環器内科 / 消化器内科 / 腫瘍内科 / 脳神経内科 / 皮膚科 / 泌尿器科 / 産科 / 小児科 / 放射線科 / リハビリテーション科	
郵便番号	住所	TEL	FAX
030-0843	青森市浜田3丁目3-14	017-729-8888	017-729-8887
在宅支援病棟の届出	有	入院稼働病床	120床
対応疾患	がん	可	一般疾患 可 難病 可
在宅療養実施項目 (○:可能)			
基本情報	症状緩和	特殊項目	
訪問診療	<input type="checkbox"/> 疼痛の対応	<input type="checkbox"/> 気管カニューレ交換	<input type="checkbox"/>
住診 (24時間対応)	<input type="checkbox"/> 呼吸困難の対応	<input type="checkbox"/> 人工呼吸器の管理	<input type="checkbox"/>
入院での看取り (有床)	<input type="checkbox"/> 倦怠感の対応	<input type="checkbox"/> 胃管の挿入と管理	<input type="checkbox"/>
在宅での看取り	<input type="checkbox"/> 消化管症状の対応	<input type="checkbox"/> 胸腔ドレーンの管理	<input type="checkbox"/>
高カロリ輸液の管理 (CV&T)	<input type="checkbox"/> 抑うつ・不安の対応	<input type="checkbox"/> 胸水ドレナージの実施	<input type="checkbox"/>
持続皮下注射の管理	<input type="checkbox"/> せん妄・不穏の対応	<input type="checkbox"/> 腹腔ドレーンの管理	<input type="checkbox"/>
PCAポンプ (電動式) の管理	<input type="checkbox"/> 終末期鎮静の対応	<input type="checkbox"/> 腹水ドレナージの実施	<input type="checkbox"/>
ディスポーザブルポンプの管理	<input type="checkbox"/> 周辺症状の悪化への対応 (認知症)	<input type="checkbox"/> 中置 硬膜外カテーテルの管理	<input type="checkbox"/>
胃ろう交換	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 腎ろう交換	<input type="checkbox"/>

病院・診療所  
 訪問歯科  
 訪問看護ステーション  
 保険調剤  
 訪問リハビリ  
 介護老人保健施設・介護医療院  
 介護老人福祉施設  
 住宅型有料老人ホーム  
 グループホーム  
 を在宅緩和ケアマップに集約

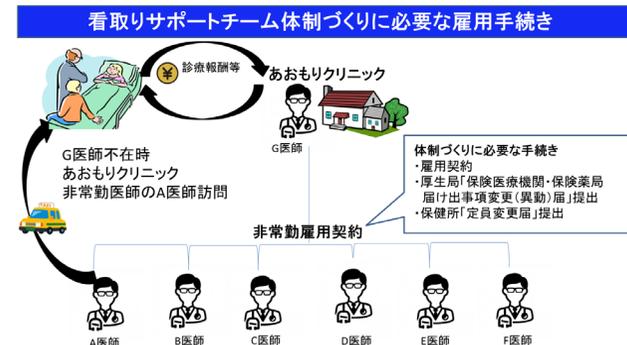


青森在宅緩和ケアマップ 青森県立中央病院HPで公開

<https://aomori-kenbyo.jp/departments/palliative-care/care-team/care-map/tosei/>

2018年 地域緩和ケア連携調整員フォローアップコース修了

青森市医師会と看取りサポートチームの立ち上げ



—経緯—

**2024年4月12日 地域緩和ケア連携調整員研修意見交換会（国がん主催）**

課題：事業の継続性・発展性、出口戦略について議論

**2024年5月 国立がん研究センター・青森県立中央病院間と事業について共有**

責任者：がん診療センター長 棟方副院長 「地域を1つの病院として考えよう」

実務：看護部 山下

事務局：経営企画室 小川

所 属	
青森県病院事業管理者	大山力
青森県立中央病院	院長 廣田和美 副院長 棟方正樹 看護部 小川深雪 穴水恵利子 <b>山下慈 廣瀬公美 富士井絢</b> 工藤麻美 薬剤部 千葉典子 経営企画室 小川龍之介
芙蓉会村上病院	<b>橋川正利（医師） 高橋賢一（医師）</b>
北畠外科胃腸科医院 青森市医師会	<b>北畠滋郎（医師）</b>
弘前大学医学部附属病院	<b>袴田光樹（MSW）</b>

太字：地域緩和ケア連携調整員 6名

# 青森県内のがん診療連携拠点病院等の状況

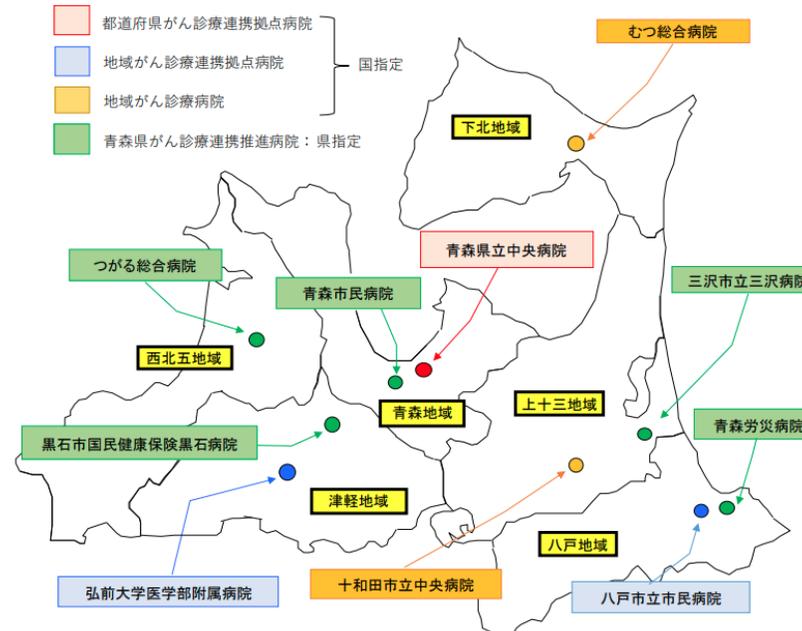
都道府県がん診療連携拠点病院  
地域がん診療病院  
地域の課題

1施設  
2施設

地域がん診療連携拠点病院  
青森県がん診療連携推進病院

2施設  
5施設

- 西北五地区の医療圏には、がん拠点病院がない
- 下北地区・上十三地区・西北五地区は、隣接した医療圏で治療している患者が多い



住み慣れた場で、患者さんが安心して療養するためには、緩和ケアの均てん化が求められる。

▶ 拠点病院以外の地域の基幹病院も一緒に取り組まなければ、地域づくりが広がらない。

▶ 病院、クリニックや保険調剤、職能団体、行政など多職種によるチームの活動が必要

→ 「地域緩和ケア連携調整員アドバンスコース」の研修会を企画運営

# 地域緩和ケア連携調整員-アドバンスコース-の企画

地域全体で緩和ケアを推進していくために、二次医療圏または市町村レベルで顔の見える関係づくりを促し、連携における地域の課題が整理され解決されるよう、地域の医療福祉従事者のネットワークを築いていく人材を育成する研修会。

## 【課題】

地域で緩和ケアを提供するに当たって、地域の資源を連携させる地域拠点（コーディネーター）機能が十分ではない。

地域の医療資源の格差・がん拠点病院が少なく地域の基幹病院・診療所が中心になる地域が多い。

## 【対応】

大学病院や地域の基幹病院、診療所等の関係施設間の連携・調整を行う「地域緩和ケア連携調整員」を育成し、それぞれの地域リソースを最大限活用する。地域緩和ケア連携調整員の育成に当たっては、下記の事項の達成を目指すこととし、テーマ・地域を一定の範囲で設定し、受講者を決定する。

1. サポート型ケア（がん対象）
2. アドバンス・ケア・プランニング
3. エンド・オブ・ライフケア

# 地域緩和ケア連携調整員研修6医療圏

# 11チーム

高齢化率32.99%

ACP推進  
対象地域：青森地域  
担当：青森慈恵会病院  
(丹野院長)

薬薬連携の推進による支持療法の質向上  
対象地域：青森地域  
担当：青森県がん診療連携協議会  
薬物療法部会  
県立中央病院  
(棟方副院長/腫瘍内科部長)

高齢化率43.84%

エンド・オブ・ライフケア推進  
対象地域：青森地域(平内町)  
担当：平内中央病院(首藤院長)

高齢化率47%~36%

エンド・オブ・ライフケア推進  
対象地域：下北地域  
(大間町・風間浦村・佐井村)  
担当：大間病院(安斎院長)

高齢化率52.14%

ACP・エンドオブライフケア推進  
対象地域：西北五地域(深浦町)  
担当：深浦診療所(吉岡所長)

薬薬連携の推進による支持療法の質向上  
対象地域：上十三地域(三沢市)  
担当：青森県がん診療連携協議会  
薬物療法部会  
三沢市立三沢病院(鈴木内科医長)

薬薬連携の推進による支持療法の質向上  
対象地域：上十三地域  
担当：青森県がん診療連携協議会  
薬物療法部会  
十和田市立中央病院  
(竹浪外科科長)

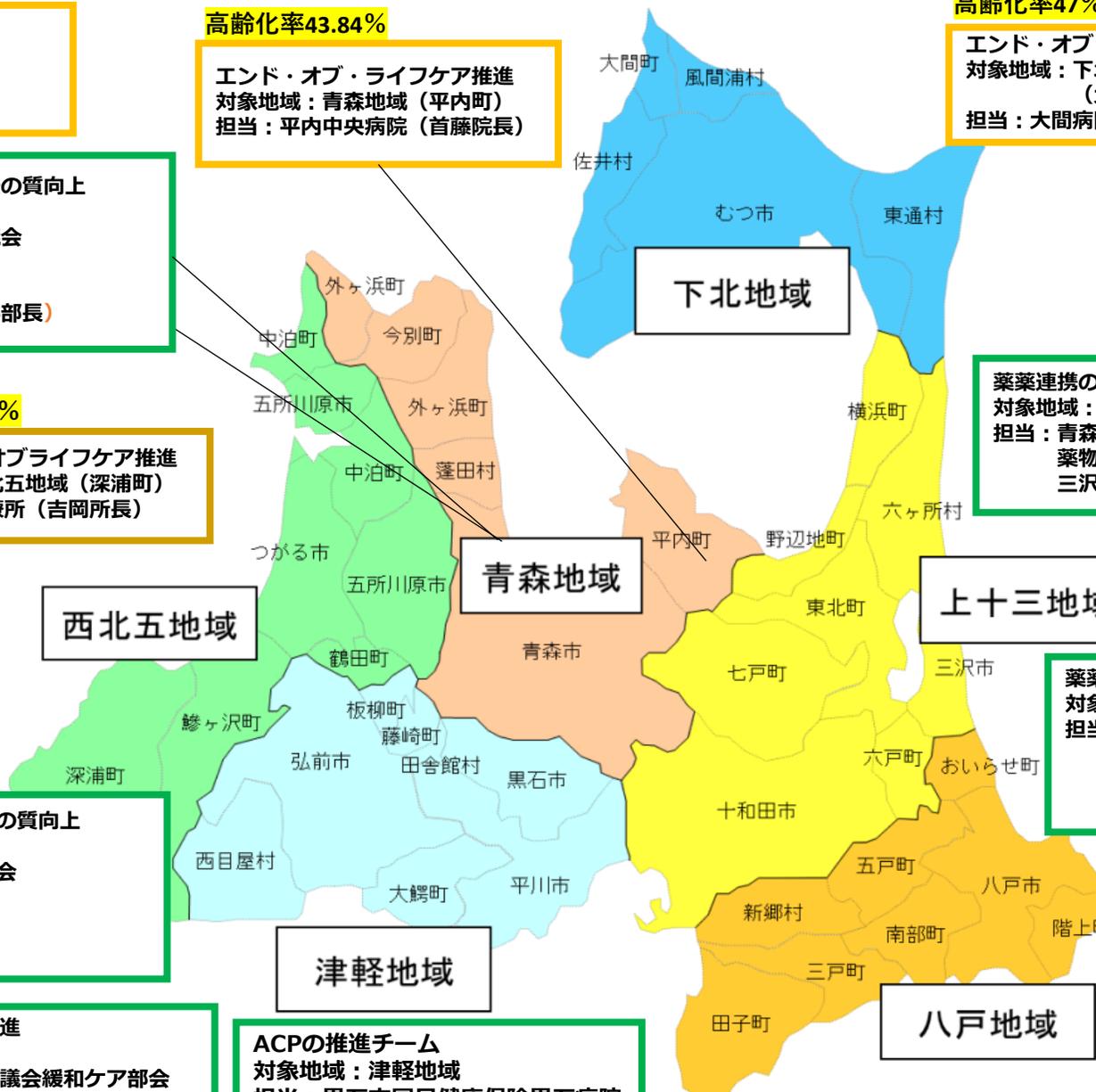
薬薬連携の推進による支持療法の質向上  
対象地域：津軽地域  
担当：青森県がん診療連携協議会  
薬物療法部会  
弘前大学医学部附属病院  
(薬剤部細井)

エンド・オブ・ライフケア推進  
対象地域：津軽地域  
担当：青森県がん診療連携協議会緩和ケア部会  
弘前大学医学部附属病院  
(麻酔科木村准教授)

ACPの推進チーム  
対象地域：津軽地域  
担当：黒石市国民健康保険黒石病院  
(三上副院長)

エンド・オブ・ライフケア推進  
対象地域：八戸地域・上十三地域  
担当：青森県がん診療連携協議会  
緩和ケア部会  
八戸市立市民病院  
(細野緩和医療科部長)

オレンジ枠：地域の基幹病院・診療所等  
緑枠：国・県指定のがん拠点・推進病院



# 地域緩和ケア連携調整員研修の受講動機-一部抜粋-

- ①治療期の患者を効果的に支援できるのか、薬薬連携の強化を図りたい。
- ②地域の在宅医の高齢化がある、拠点病院として地域医療を支える立場になりたい。
- ③「顔の見える関係づくり」を深め、地域の課題を整理・解決するためのスキルや知識を習得したい。
- ④緩和ケアチームの活動が停滞している。受診時にすでにターミナル、高齢独居者など困難事例が多い中で、がん患者が地域で取り残されないためのヒントを得たい。
- ⑤がん患者が多いが、地域の相談窓口がなく、困りごとが散見している。行政にも窓口があればよいと思うが、どう対応してよいかわからなかったから。
- ⑥がんの地域ネットワーク等はないため、自施設以外の情報は入ってこない。ACPの取り組みもしていないため、地域としての仕組みづくりを考える機会になればよいと思う。
- ⑦特別養護老人ホームでがんの看取りを体験したが、苦痛が緩和されず苦勞した。介護施設におけるがんの看取りを地域で考えたいと思った。



# 地域緩和ケア連携調整員研修-事前課題-

36項目中、平均値が最も低かった5項目

項目	がん拠（国） （n=29）	がん推進（県） （n=9）	地域 （n=32）
8. 地域で在宅医療に関わっている施設の理念や事情が分かる	2.1 (±1.2)	2.4 (±1.1)	2.4 (±0.9)
9. 地域で在宅医療に関わっている人の名前と顔、考え方がわかる	2.1 (±1.3)	2.3 (±1.4)	2.4 (±0.8)
11.地域でがん治療に関わっている人の性格・つきあい方がわかる	1.8 (±0.9)	2.0 (±1.1)	2.2 (±0.9)
14. がん緩和ケアの地域連携に関する課題や困っていることを共有し、話し合う機会がある	2.0 (±1.1)	2.1 (±1.4)	2.2 (±1.0)
15.がん支持療法の地域連携に関する課題や困っていることを共有し、話し合う機会がある	1.9 (±1.1)	2.4 (±1.4)	2.2 (±1.0)

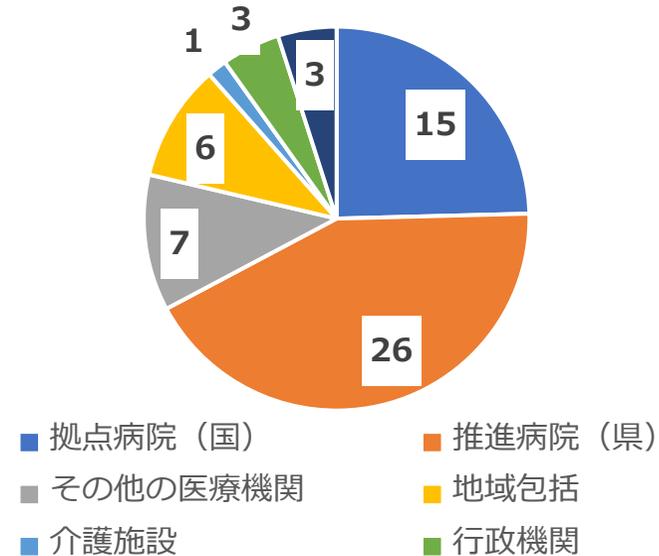
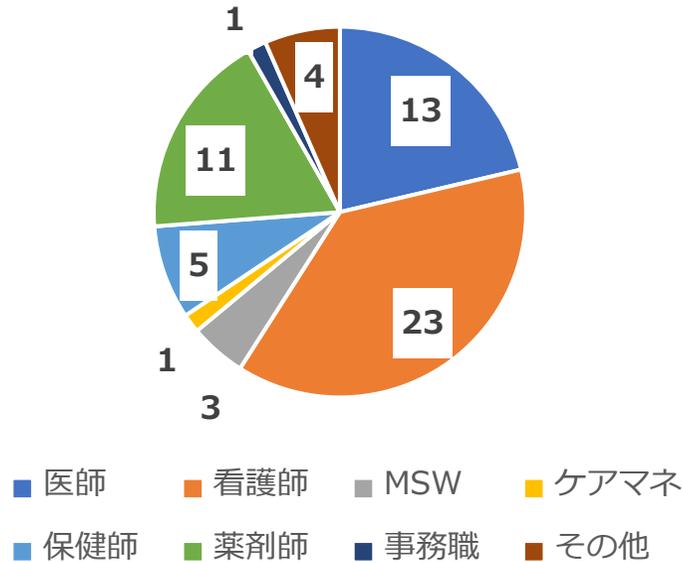
1. そう思わない 2. 思わない 3. 少しそう思う 4. そう思う 5. とてもそう思う

- 36項目中、平均値3未満の項目は、25項目あった。
- 最も平均値が高かった項目は、「17. 地域でがん患者に往診してくれる医師が分かる」（平均値3.5）であった。

# 地域緩和ケア連携調整員研修-青森-

1. 開催日：令和6年12月15日（日） 8：45～16：15

2. 参加者の所属先と職種



・参加者 61名

職種：病院医療者 77%、行政・MSW・ケアマネ等 23%

拠点病院からの参加は、24.5%

**地域の基幹病院や介護施設、行政等からの参加が75.5%**



青森市 12月は豪雪の時期

# 地域緩和ケア連携調整員研修-青森-

## 取り組み-テーマ-

1. 青森県、青森地域の病薬連携・支持療法対策の拡大化
2. TRで地域連携を上手くやっていく
3. 地域での医療・介護連携組織の構築と実践  
-住み慣れた場所で本人の望む人生を全うする-
4. 患者が安心、安全にがん薬物療法を遂行できる地域
5. 病院と地域住民に向けたACPの教育
6. がん治療から看取りまでを支える地域

## 取り組み-テーマ-

7. 患者・家族が望む在宅で緩和ケア療養ができる地域
8. 過疎地域であっても本人が希望する暮らしができるようにするために
9. いつでも誰でも望んだところで緩和ケアを受けることができる地域をめざして
10. ACPの普及と地域における看取り体制強化のために
11. エンド・オブ・ライフケアの推進



# 地域緩和ケア連携調整員-アドバンスコース-修了 各地域の活動

令和7年10月5日（日）地域緩和ケア連携調整員-青森-  
フォローアップ研修会開催予定

※もしご興味がある方いましたら、ぜひ視察にいらしてください。

# テーマ：病薬連携「地域を巻き込んだ支持療法対策の拡大」

1 G青森地区・2 G津軽地区・3 G・上十三地区・6 G上十三地区

抗がん剤治療患者さんを地域で支えましょう

令和6年度  
がん治療の薬薬連携に  
関する研修会

Webexによるオンライン配信

第1回 1月23日(木)19:00~20:30  
～トレーニングレポートの仕組みとコツを知ろう～  
①青森県共通トレーニングレポート(がん)の紹介 青森市民病院 薬剤部 主催  
②伝わるトレーニングレポートの書き方 青森市民病院 薬剤部 主催  
③保険薬局での取り組み紹介(なの花薬局浦町店) 青森県立中央病院 薬剤部 主催

第2回 2月6日(木)19:00~20:30  
～大腸がんに使われる抗がん剤を知ろう～  
①大腸がんの周術期薬物療法 弘前大学医学部附属病院 薬剤部主催  
②切除不能・再発大腸がんの初期治療 むつ総合病院 薬剤部主催  
③切除不能・再発大腸がんの3次治療以降 国保黒石病院 薬剤部主催

第3回 2月20日(木)19:00~20:00  
～抗がん剤の副作用対策ガイドラインを知ろう～  
①制吐剤適正使用ガイドラインについて 青森労災病院 薬剤部主催  
②がん治療による末梢神経障害診療ガイドラインについて 三沢市立三沢病院 薬剤部主催

お申込み・お問合せ 参加費 無料

WEBから開催日毎にQRコードを読み取りご登録ください。  
各回とも開催の1週間前までお申し込みをお受けしております。  
各主催医療機関情報に関しては、以下URL中リンクよりお進みください。

後援：青森県がん診療連携協議会 <https://aomori-kenbyo.jp/ganshinryo/gan-tracing-report/>

課題①病院薬剤師が確保できない

→病院内に薬剤師が3名しかいないという施設もあり

②支持療法を充実させていきたいが、TRの運用や対応、教育まで手が届かない

病院薬剤師不足だからこそ、地域の薬剤師と連携を強化

活動

今年度、薬物療法部会で県内共通版TRを作成

①薬薬研修会を県病が事務局としてサポート

・広報は県薬剤師会にも依頼

→テーマは重ならないよう病院間で企画

→オンライン会場は提供、運営は各病院主催

第1回は122名参加(86%が保険調剤)

感想

「今後はやっていきたい」43.8%

「もっと頑張りたい」39.8%

②TR(フィードバックを含めて)は今後評価

経口抗がん剤等新規治療薬の増え、以前はがん終末期であった患者が化学療法を行うケースが増えている→保険調剤のTRには、支持療法だけでなくがんによる症状の報告も多い

# テーマ：「エンドオブライフ・ケアの推進」

11G 下北地域（大間町・佐井村・風間浦村）高齢化率36～47% 人口5700人程度

## ACP推進チームを立ち上げ

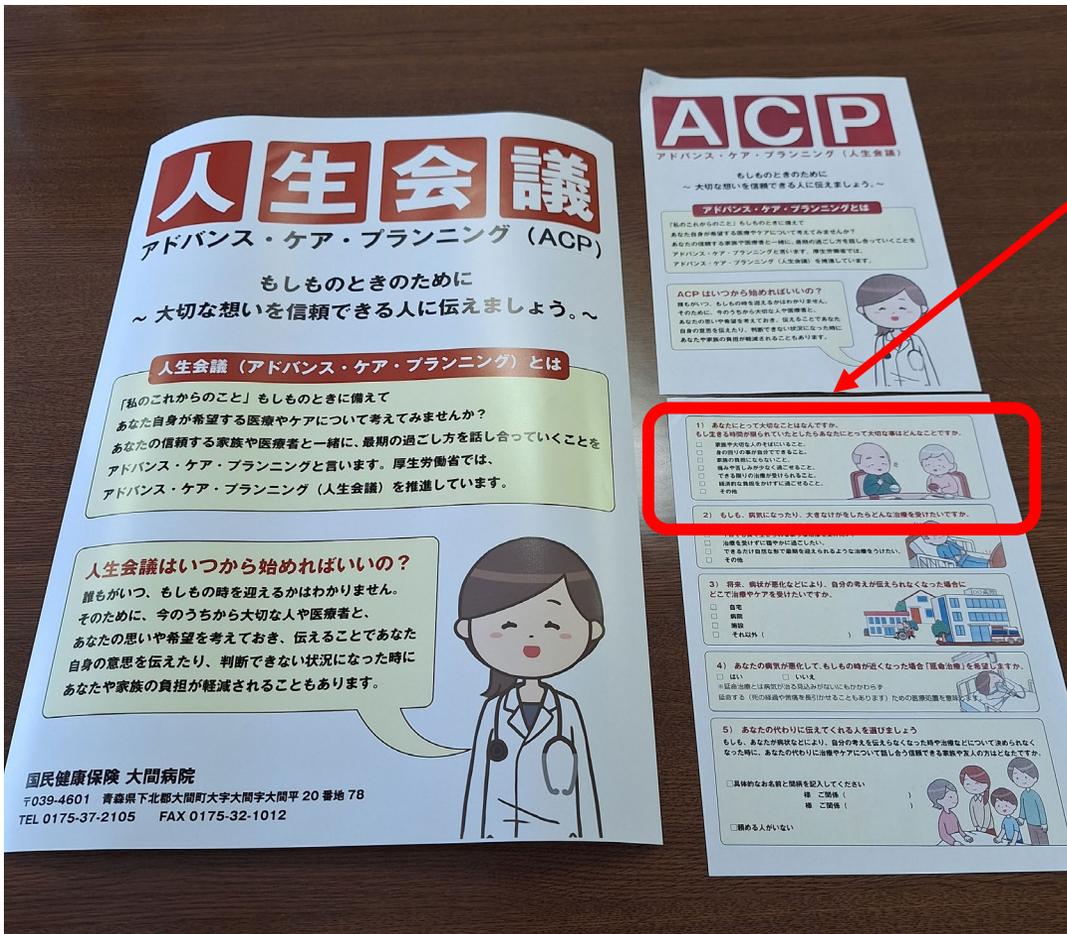
### 問診票の内容 一部紹介

1) あなたにとって大切なことはなんですか？  
もし生きる時間が限られているとしたらあなたにとって大切なことはどんなことですか？

- 家族や大切な人のそばにいること
- 身の回りのことが自分でできること
- 家族の負担にならないこと
- 痛みや苦しみが少なく過ごせること
- できる限り治療が受けられること
- 経済的負担をかけずに過ごせること
- その他

### 参加者

大間病院院長・総看護師長  
大間町・佐井村・風間浦村の行政・居宅  
（保健師・介護支援専門員等）



## 大間病院総看護師長から

研修会で顔の見える関係ができたので、LINEで意見交換しながら企画しました。

1町2村、病院が一緒になって研修会を企画したり活動が広がりました。

1町2村の広報に、ACPをコラムで紹介していきたい。

# 地域緩和ケア連携調整員研修-なぜできたか？-

## 1. 青森県がん診療連携協議会としての活動

緩和ケア部会・薬物療法部会へのアプローチが可能 「がん治療から緩和ケアまで」

## 2. 地域緩和ケア連携調整員としての活動実績と地域との信頼関係

青森在宅緩和ケア懇話会（有志の会 2021年解散）とのネットワークがあった

→地域緩和ケア連携調整員研修終了後、地域の課題が明確になり職能団体、地域の医療機関等と

活動する機会が増えた ①在宅緩和ケアマップの作成（青森地域・西北五地区）

②看取りサポートチームの発足

## 3. 公立病院の役割と機能

「青森県保健医療計画」「青森県地域医療構想」などの施策に取り組む役割があること

## 4. 県内の医療の中心が弘前大学医学部であること

医師間は、他の職種とは違い医局の繋がりがあるため顔のみえる関係がある

## 5. 圏域を超えてがん患者が県病を利用しており、地域の状況がなんとなくみえる

国立がん研究センターのサポートのもと、1～5が強みとなり開催できました  
みなさんの地域にも、上記のような強みはありませんか？

# 地域緩和ケア連携調整員研修-青森県-

緩和ケアに求められることは、均てん化

**治療期であっても、終末期であっても**

**-住み慣れた場でつらくなく、安心して療養できること-**

○地域緩和ケア連携調整員のファシリテータを努めてこれまで感じたこと

- ・ ○○の地域に住む患者さんは、帰りたくても帰れない  
→医師・訪問看護師がいない、介護できる家族がいない
- ・ 情報があまり入ってこない、わからない

○そこに住む地域でなければわからないこと、そこに住む人たちでなければできないことがある

○地域緩和ケア連携調整員の研修会では、地域の多様性を学び、自分たちの取り組むべき方向性を見出すプログラムになっています。



青森県の花-りんごの花-

**○地域を1つの病院として考え、組織の垣根を越えて取り組んでみませんか。**